

新年のご挨拶

宮城県医師会会長 佐藤 和 宏



明けましておめでとうございます。昨年は、新型コロナウイルス感染症に、
 またも翻弄された1年間でした。宮城県医師会館3階の事務所の扉に「入室
 される方へ ○手指の消毒 ○マスクの着用 を宜しくお願いいたします。
 令和2年2月18日 公益社団法人宮城県医師会長」という張り紙が貼ってあ
 ります。もはや約3年の時間が流れたのですが、その収束は未だに見えませ
 ん。

その時間経過の長さ、繰り返し襲ってくる感染の波などは、私たち医療界
 のみならず、日本や世界を巻き込んで深刻な負の影響を与えています。人類
 が出会ったウイルス感染症の中で、もっとも厄介な感染症であると言えるかもしれませ
 ん。しかし何事にも終わりがあります。私たちは辛抱強く、この難敵に立ち向かい、その収束を早く見届けたいと強く
 祈念します。

昨年6月には、日本医師会の役員選挙があり、中川俊男会長が立候補辞退に追い込まれ、松本吉郎会
 長が誕生しました。渦中にいたものとして、様々な思いはありますが、決まった以上は松本執行部に協
 力することが必要だと感じています。東北医師会連合会の取り決めで、私は2年間、理事を務めること
 になりました。理事会に出て感じることは、情報量が圧倒的に豊富であるということと、リアルタイム
 で執行部の考え方を聞くことができるという2点です。今までは、日医理事会報告を当会理事会に出し
 て東北各県医師会に回すということはありませんでしたが、東北から出た理事としての責務と考えて、
 毎回報告するようにしております。また日医幹部やほかの都道府県医師会長となるべく「全方位外交」
 を行おうと心がけています。今回の選挙結果を踏まえてのことです。

選挙と言えば、7月の参議院選挙では、自見はなこ議員が当選しました。医療系でトップ、実質6位、
 前回の得票数を上回るという快挙でした。この要因は、医師連盟会員の頑張りも大きいですが、何とい
 っても彼女の普段の政治活動の成果によるものと考えています。さらに精進して、より大きな存在にな
 ることを期待しています。

コロナで頑張ったにもかかわらず、医療への風当たりはますます強くなっています。その原因は「コ
 ロナで16兆円も医療関係に使用したのだから、もはやいいだろう、追加のお金はないですよ」といった
 考え方にあると思います。しかしこの内容は吟味されるべきであり、私が委員長を務める日医の医療経
 営検討委員会で今後精査します。

ところで、いわゆる団塊の世代が75歳となれば、医療保険、介護保険が切迫することは必定であり、
 そうした意味からも今のうちから様々な抑制策が示されています。すなわち、少子高齢化は、日本の諸
 問題の根源にあると感じています。したがって、私たち医療人もこの問題に関心を持ち、もっと関わる
 べきだと感じています。日医の令和4年度女性医師支援・ドクターバンク連携北海道・東北ブロック会
 議（山形市に於いて）や全国学校保健・学校医大会（盛岡市に於いて）に出席して、そう感じました。

かつて医局時代に男性不妊症の原因解明に携わった時期がありました。当時は体外受精が始まった時
 期でもあります。世論の風潮は非常に冷たいものでした。現在はそのようなことを表立ってという方は

年 頭 所 感

少ないと思います。世論というものの無責任さも感じますが、私たち医師会としてできることは今からでも行いたいと感じています。

結びに宮城県医師会会員先生方のますますのご多幸とご健勝を祈念し、併せて宮城県医師会、宮城県医師会協同組合、宮城県医師会健康センターに対するご理解とご支援をお願い申し上げ、新年のご挨拶とさせていただきます。

